平成26年度 みやこユニバーサルデザイン賞 受賞作品・取組集

ユニバーサルデザインとは

「すべての人のためのデザイン」と言われ，年齢，性別，国籍，能力など，様々な特性や違いを超えて，できる限りすべての人が利用しやすいようにまちづくりやものづくり，情報やサービスの提供を行っていこうとする考え方のこと。

京都市

■みやこユニバーサルデザイン賞とは

京都市では，だれにでも利用しやすいものやサービス等の普及を目指す，ユニバーサルデザインの考え方を多くの皆様に知っていただくとともに，ユニバーサルデザインの取組を促すことを目的として，市内の団体，事業者，学校，個人等のすぐれたアイデアや実践活動を「みやこユニバーサルデザイン賞」として顕彰しています。
今年度は，6月2日（月）から9月10日（水）の期間（一般取組・企画部門は7月31日まで）募集し，京都市みやこユニバーサルデザイン審議会における部会での厳正な審査の結果，みやこユニバーサルデザイン賞を決定いたしました。

■審査員

氏名	所属・職名等
東　　憲昭	京都商工会議所常議員，観光・運輸部会副部会長
有地　淑羽	コンシューマーズ京都理事＜副部会長＝副審査委員長＞
市村　勝	京都商店連盟副会長
岡　　仁美	市民公募委員
北見　貴志	神戸夙川学院大学客員講師
神門　佐千子	京都 YWCA 評議員
塚田　章	京都市立芸術大学教授＜部会長＝審査委員長＞
新家　忠弘	京都市 PTA 連絡協議会会長
直野　信之	京都新聞社会福祉事業団常務理事
藤松　素子	佛教大学社会福祉学部教授
本田　里美	京都弁護士会弁護士
宮井　真澄	京都市児童館学童連盟理事
森本　一成	京都工芸繊維大学教授

五十音順

■平成26年度みやこユニバーサルデザイン賞受賞（応募）概要

一般取組・企画部門　**5件　（応募件数　6件）**

青少年アイデア部門　**15件　（応募件数　796件）**

多数の御応募ありがとうございました。

■平成 26年度みやこユニバーサルデザイン賞一般取組・企画部門の所感

一般取組・企画部門への応募総数は６件と今年度も応募は少なく低調な状況でした。応募された作品は昨年と同様のプロセスで審査を実施しました。６件のうち１件は既に公知状態の内容である事から審査対象から外し，５点の提案はプレゼンテーションを実施していただき，評価項目を設けて総合的に判断しました。

その結果，東山観光支援コミュニティプロジェクトチームの“東山観光支援コミュニティ（愛称：京都・東山おもてなし隊）”がみやこユニバーサルデザイン大賞となり,“そらまめプロジェクト京都発達障がい啓発キャラバン”,“ユニーズ・おこしやす京都”,“誰にでも優しい人力車観光を目指して”,“京都ユニバーサル・ミュージアム『触る学ぶ展覧会ー子供護る守り紙ー』”が，みやこユニバーサルデザイン奨励賞に選定されました。

大賞の“東山観光支援コミュニティ（愛称：京都・東山おもてなし隊）”は，コミュニティでの裾野の広がりと実施面での成果が高く評価されました。奨励賞の４点はそれぞれ，独自の切り口で着実にユニバーサルデザインを実践されていて評価されました。

京都市立芸術大学美術学部デザイン科　教授　塚田章

一般取組・企画部門

テーマ：京都のおもてなしに関する取組・企画

みやこユニバーサルデザイン大賞

東山観光支援コミュニティ（愛称：京都・東山おもてなし隊）

Universal Design

東山観光支援コミュニティプロジェクトチーム
（京都産業大学経営学部松高ゼミ）

【作品概要】
「東山観光支援コミュニティ（愛称：京都・東山おもてなし隊）」は，東山に訪れた誰もが安心して観光できるように，介助や荷物の一時預かりなど、各自で出来るちょっとした工夫や親切で観光客をおもてなしする東山のお店や観光施設等で作るコミュニティ。

【審査員コメント】
大学・行政・地域ぐるみでユニバーサルな京都観光のスペースを作っていかれる姿が，広く市民を巻き込み，啓発に繋がっていると思った。今後の広がりが期待でき，学生がゼミの活動から実践へと進んでいることが興味深い。

みやこユニバーサルデザイン奨励賞

そらまめプロジェクト京都発達障がい啓発キャラバン

第 4 期京都市未来まちづくり
100 人委員会 12 グループ有志

【作品概要】
一般市民理解を深めるために，企業，学校，社会福祉施設等に呼びかけて，およそ 90 分程度の啓発研修の機会を創り，受講者には理解を進める市民となっていただくようスカイブルーリングを配布する取組。

【審査員コメント】
他団体との協力関係があり，発展性が高い。京都発のモデルプロジェクトになってほしい。

ユニーズ・おこしやす京都

市民ボランティアグループ「ユニーズ京都」

【作品概要】
視覚に障害があっても，観光や研修を目的として京都へ出かけてみたいと望んでおられる方たちに「目の提供（eye help）」をすることで，自由に行動してもらえるようサポートする取組。

【審査員コメント】
活動が具体的に行われていて社会に貢献している。あくまでも「目」の代わりに徹するというスタンスを高く評価する。

誰にでも優しい人力車観光を目指して

えびす屋總本店

【作品概要】

人力車の利用の有無に関わらず，京都に来られる全ての方をお客様と捉え，気持ちの良い観光をしていただけるよう行っている取組。

【審査員コメント】

人力車という限られたツールではあるが，救急体制のための訓練，地域貢献など活動分野の広がりが感じられる。将来的な発展に期待したい。

京都ユニバーサル・ミュージアム『触る学ぶ展覧会ー子供護る守り紙ー』

京都ユニバーサル・ミュージアム実行委員会

【作品概要】

「誰もが楽しめる博物館」という理想的な展示の実現を目指し，全ての展示品を自由に触ることができる取組。

【審査員コメント】

視覚健常者も視覚障害者も皆が楽しめる展覧会，まさに趣旨に合った作品だと思う。今後はさらに啓発活動を進めていただきたい。